

# デュアルスタック環境でのIPv4のみのDSLモデムの接続解除のトラブルシューティング

## 内容

[概要](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

## 概要

このドキュメントでは、ASR1000シリーズルータで終端している間に、デュアルスタック環境でのみIPv4が切断されたDSLモデムを回復するソリューションについて説明します。

## 問題

切断されたDSLモデムは、LNSデバイスでIPv6(IPv6CP)を有効にした後にPPPキープライフが失われたことが原因です。

LNSとしてのASR1000は、IPv6CPメッセージをCPEデバイスに絶えず送信しています。これは、RFC 1661に従った動作です。ピアとのネゴシエートを試みます。ピアがIPv6CPを認識できない場合、ピアはPROTREJを送信する必要があります。PROTREJはLNSがIPV6CPのネゴシエートを試行しません。

このような一定のIPv6CPメッセージにより、レガシーIPv4専用モデムがLNSへのキープアライブの送信を停止し、セッションが切断される可能性があります。

## 解決方法

仮想テンプレートインターフェイスの次の設定を使用して、IPv6CPメッセージを継続的に停止できます。

```
1. ppp ncp passive ipv6cp
```

# LNSは、クライアントによって開始された場合にのみipv6をネゴシエートします。

代替オプション：

```
2. ppp ncp override local
```

#Thisコマンドは、RADIUSからの許可で受信した属性を追跡し、許可されたNetwork Control Program(NCP)を確認し、現在のNCPネゴシエーションを拒否し、ローカルデュアルスタック設定を上書きします